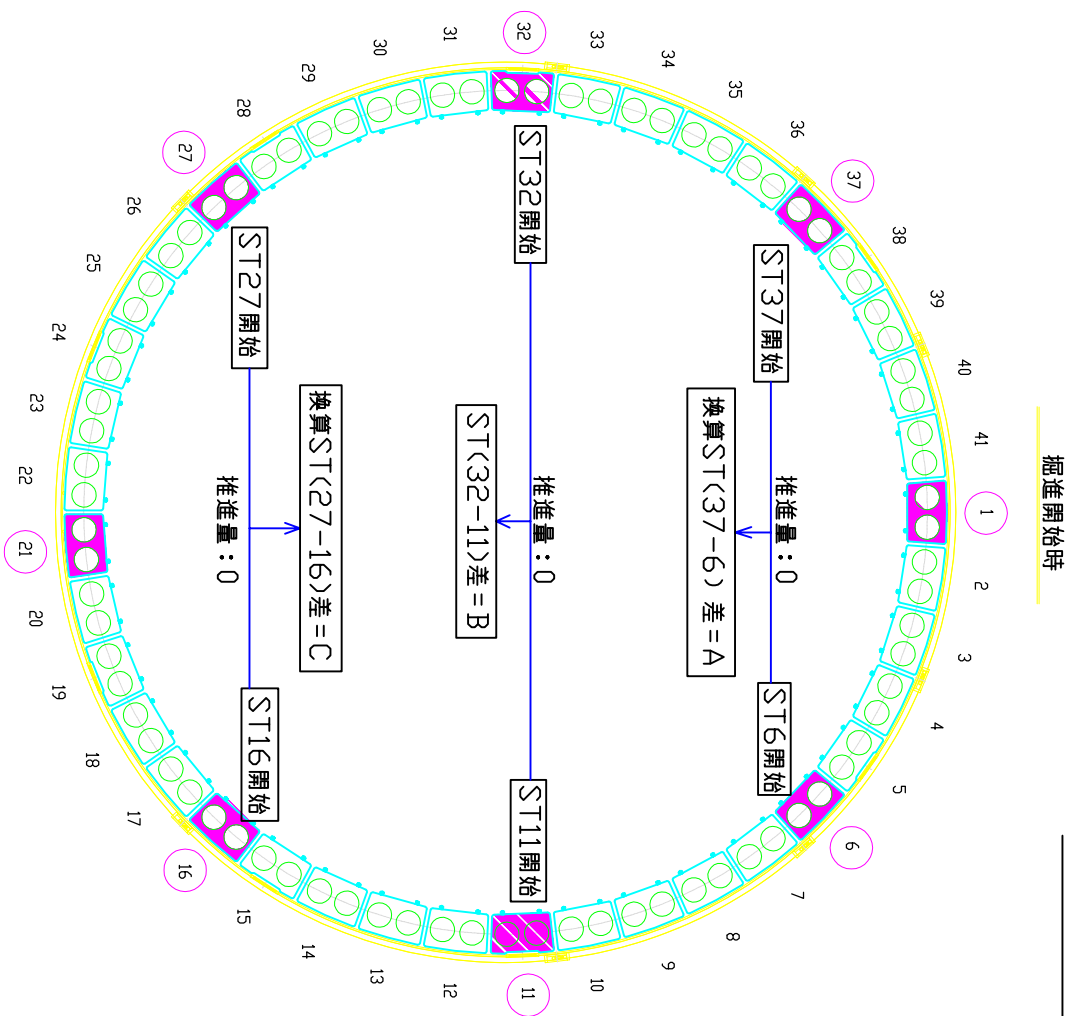


ストローク差データの異常診断



初期ストローク差とその差異把握（掘進前）

換算(37-6)差=A      換算(37-6)-ST(32-11)=A-B= $\alpha$   
ST(32-11)差=B      換算(27-16)-ST(32-11)=C-B= $\beta$   
換算(27-16)差=C      換算(37-6)-換算(27-16)=A-C= $\gamma$ = $\alpha$ - $\beta$

各ストローク差間の差異把握（掘進中）

A-B= $\alpha$   
C-B= $\beta$   
A-C= $\gamma$  ( $\alpha$ - $\beta$ )

異常データ診断判定式

$\alpha-3\sigma$  ( $\sigma=1.0$ )  $< \alpha$   $\gamma < \alpha+3\sigma$  ( $\sigma=1.0$ )  
 $\beta-3\sigma$  ( $\sigma=1.0$ )  $< \beta$   $n < \beta+3\sigma$  ( $\sigma=1.0$ )  
 $\gamma-3\sigma$  ( $\sigma=1.0$ )  $< \gamma$   $n < \gamma+3\sigma$  ( $\sigma=1.0$ )  
 $\sigma=1.0$ mmは調査データ6リッザでの最大値

$\alpha$ n、 $\beta$ n、 $\gamma$ nが上記の条件式を満たした場合を正常値とする。

異常値発生時

- ①  $\alpha$ n、 $\beta$ nで異常：Bのストローク差データの発生の可能性が高い。
- ②  $\beta$ n、 $\gamma$ nで異常：Cのストローク差データの発生の可能性が高い。
- ③  $\alpha$ n、 $\gamma$ nで異常：Aのストローク差データの発生の可能性が高い。
- ④ ⑤ ⑥  $\alpha$ n、 $\beta$ n、 $\gamma$ n単独で異常：各要素のストロークデータ異常。

コメント出力

〇〇ストローク差データが異常です。  
点検確認後、不良であれば別のストローク差に変更してください。